湿地の環境

自然の湿地

湿地といえば、群馬県の尾瀬ヶ原や北海道の釧路湿原などが有名ですが、このような広大な湿地は大阪府にはありません。しかし、山間の水田の奥やため池の周りなどには、小さい湿地が点々と残っています。能勢町の地黄や四條畷市の室池周辺、和泉市の信太山などでみられるのがその例です。

ここでは、地面からしみ出した水などが、土の栄養分を流してしまうため、やせて酸性になっていることが普通です。栄養分が少ないため、「貧栄養湿地」とよばれます。植物にとっては大変厳しい条件となるので、多くの植物には耐えることができません。そのかわり、他の場所ではみられない植物や昆虫などの生きものの生活場所となっているのです。

サギソウやトキソウ、モウセンゴケなどは、このような栄養条件の厳しい場所でしかみることができません。日本で最も小さいトンボであるハッチョウトンボも、やはりこのような環境で多くみられます。これらの生きものは、育つための競争力が弱いため、他の生きものが好まない栄養条件の悪い環境にうまく適合することで、競争を避けていると考えられています。

87. ハッチョウトンボ （♂）

88. ハッチョウトンボ （♀）

87,88. 宇都宮 靖博　89. 佐々木 祐二　90. 北山 昭　91. 西田 浩志

89. 自然の湿地

90. サギソウ

91. トキソウ

放棄田（休耕田）や水田

最近になって増えてきた湿地として、もともと水田であった場所が放置された後、水がたまった放棄田（休耕田）があります。水田自体も人工的な湿地といえますが、放置された後にある程度の水の供給があれば、生きものの豊かな湿地環境に生まれ変わります。このような湿地は、もともと水田であったことから、栄養分や泥の豊富な「富栄養湿地」となります。

生きものもたくさんすんでいて、カエルなどの両生類が最も好む環境です。トノサマガエルやダルマガエル、ヌマガエル、アマガエル、シュレーゲルアオガエル、カスミサンショウウオなどがみられますが、ダルマガエルは大阪府では大変珍しく、北摂地域の一部でしかみることができません。カエルを狙うヤマカガシやシマヘビなどもすんでいますし、クサガメやイシガメなど、は虫類もみられます。さらに、クロゲンゴロウやシマゲンゴロウ、ハイイロゲンゴロウ、ミズスマシ、タガメ、タイコウチ、コオイムシなどの水生昆虫の最も豊富な環境です。鳥では、タマシギやツルシギ、タカブシギなどのシギがみられます。秋冬には、ウズラやツバメチドリをさがしてみたい場所でもあります。コオニタビラコやヨメナなどの植物も、このような環境に特有な種類です。

人工的な湿地である水田も、農薬などの影響が少なければ多くの生きものがすめる環境となります。山麓部の林の近くにある水田では、２～３月のまだ寒い時期に、カスミサンショウウオやアカガエルなどが産卵に訪れます。この頃の水田は水がぬかれていて、生きものの姿はほとんどありませんが、所々にできた水たまりが産卵場所となるのです。これらの生きものは、水田など農業の営みによって生活を維持してきた種類といえます。しかし、最近では水田の整備によって、この時期の水田に水たまりが少なくなり、産卵場所が減ってしまいました。その影響で、これらの生きものも減りつつあります。

92. アカガエルの卵塊

93. カスミサンショウウオと卵のう

92. 宇都宮 靖博　93,94,98. 森 正人　95. 北山 昭　96. 熊代 直生　97,99. 内田 浩伸